

「第16回TQM活動発表セミナー」が開催されました。

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



2022年5月28日（土）、「第16回TQM活動発表セミナー」が開催されました。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のためWEB会議形式で行いました。

日々の業務を継続的に改善していくため、健育会で毎年開催しているのがTQM（トータルクオリティマネジメント）活動発表セミナーです。審査員長は昨年に引き続き、東邦大学医学部医学科社会医学講座医療政策・経営科学分野教授の長谷川友紀先生に務めていただきました。

毎年2月に開催していますが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で5月の開催となりました。まず冒頭に私がオンラインで述べた発表会への想いをご紹介します。



健育会の「TQM活動発表セミナー」が始まったのは2007年。当時の発表は7演題でした。それから毎年セミナーを続け、16回目となる今年は各地域で予選を勝ち抜いてきた20演題の発表が予定されています。このように健育会グループでは「TQM活動発表セミナー」が完全に根付き、外からも健育会のTQM活動は高く評価されるようになりました。2019年には東北初となる「TQM活動発表セミナー」で、石巻健育会病院が幹事を努め、さらに今年は東京で行われる全国大会のシンポジウムに、森マネージャーがシンポジストとして参加するよう要請がありました。

TQMは、総合的な品質改善活動です。その原点は、日々の業務をいかに効率的に、質の高い医療ケアサービスとして提供できるかをチームで考えることにあります。今までのルールだから、と毎日同じことを繰り返しては改善はありません。セミナーを通じ、日々の業務が本当に最善の状態かを考え、そこでの気づきやふとした疑問を大切にしながら業務改善をしていくことをチームで学んでほしいと思います。

また今回の発表では、日々の業務改善だけでなく、患者さんやご利用者さんに提供する医療や介護ケアの質改善に取り組んだ演題も見られます。まさに皆さんが患者さんやご利用者様の立場に立ち、「愛情を持って親身な対応」という今年のスローガンを目指していると感じました。

そして今年はTQM活動を長年続けてきたグループと、最近始めたグループを分けて発表するという新しい形式をとっています。これによりチームのTQMだけでなく、個人個人が常に自分自身を改善していく、セルフイノベーションにもつながっていくことを期待しています。それでは皆さんの発表を楽しみにしています。

今年は、活動期間が浅いフレッシュ組を前半に、長年取り組んできた熟練組を後半に分けて10題ずつ発表を行いました。

前半の座長は、いわき湯本病院の布施由美看護部長が努めました。



審査員は、各病院施設から1名ずつ代表者を選出しています。

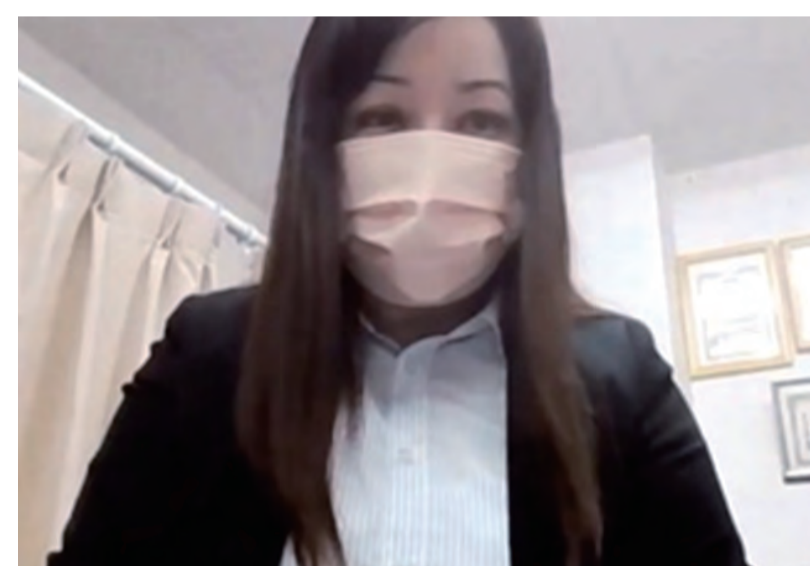
前半の演題名は以下になります。

発表《前半》

1

しおんの職員における口腔ケアの質の向上への取り組み

介護老人保健施設しおん
千葉幸子(介護支援専門員)
チーム名:オーラルピンク2021



2

口腔ケアにおける職員の技術向上

ライフケアガーデン湘南
山本秀夫(介護福祉士)
チーム名:口腔環境整え隊



3

ケアマネジメント業務におけるペーパーレス化の推進

ひまわり在宅サポートグループ
土屋力也(社会福祉士)
チーム名:減らし家ペーパー



4

車椅子レンタルにかかるコストの削減

湘南慶育病院
丸山祥(作業療法士)
チーム名:シーティング



5

**通所リハ集団体操の満足度と参加率向上を目指す
～参加を促す仕組みとオリジナル体操の導入～**

介護老人保健施設ライフサポートひなた

曲田利恵(介護士)

チーム名:体操で元気にし隊 練馬2021の挑戦



6

**入院患者における自主練習の実施率を100%にしたい
～対象者が能動的に取り組むシステム作り～**

ねりま健育会病院

渡邊芽衣(理学療法士)

チーム名:自主練オタク



7

ゴミ分別における安全性の向上

茅ヶ崎セントラルクリニック

服部佐季(臨床工学技士)

チーム名:BGS(BestGomiSiwake)



8

有料老人ホームにおける感染予防対策の徹底

ライフケアガーデン熱川

土屋直美(准看護師)

チーム名:keep.safe.for



9

歩行自立者の転倒リスクを早期に発見する仕組み作り

介護老人保健施設ライフサポートねりま

脇島克介(理学療法士)

チーム名:転倒転落対策は、あなたが思うよりやっています



10

褥瘡予防に向けた看護計画立案の向上

石川島記念病院

櫛田康代(看護師)

チーム名:美肌づくり隊



後半の座長は石川島記念病院の竹川英徳先生が努めました。



後半の演題名は以下になります。

発表《後半》

1

病棟における退院患者への褥瘡予防指導実施率の向上

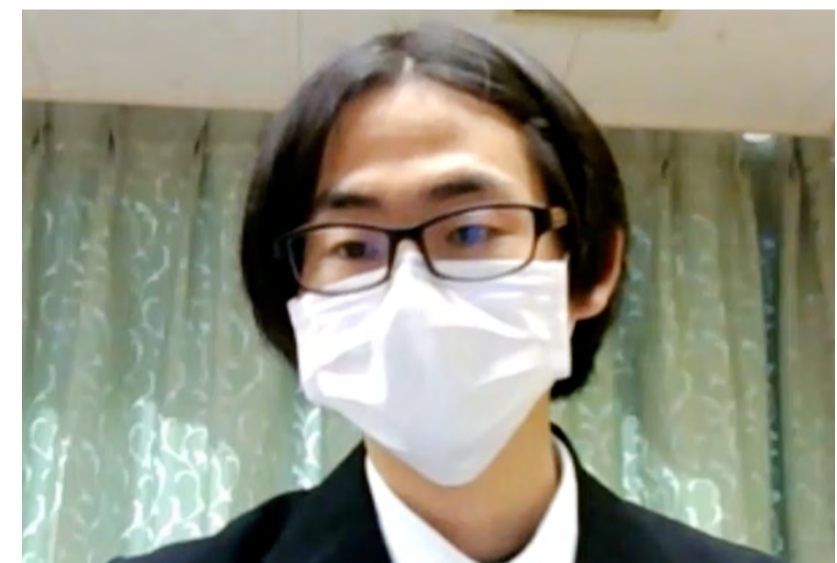
石巻健育会病院
菊池美咲(看護師)
チーム名:small change



2

褥瘡予防における、仙骨部位圧の減少

熱川温泉病院
本山命(看護師)
チーム名:熱川温泉病院健康推進部褥瘡課予防対策係特捜班



3

With コロナ～安全に楽しく～

ケアセンターけやき
内山純一(介護福祉士)
チーム名:コロナ禍でもレクやる団



4

しおさいにおける科学的介護情報システム(LIFE) 活用に伴う加算の算定

介護老人保健施設しおさい
山本嗣也(事務)
チーム名:しおさいチーム



5

老健オアシス21における脱オムツの改善率向上

介護老人保健施設オアシス21

梶幸奈(介護福祉士)

チーム名: ~超強化型老健の役割って何だろう パート4~



6

排泄ケアにおけるパット選択の見直し ~個別性のある排泄支援~

西伊豆健育会病院

外岡明香梨(看護師)

チーム名: 3階病棟(ムダ使いをなくし隊)



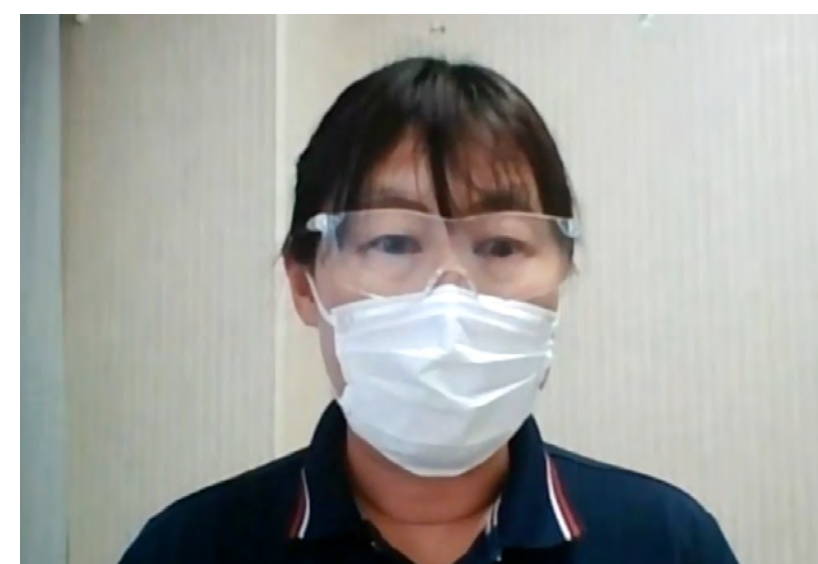
7

特別擁護老人ホームにおけるシーティングの 実施率の向上

ケアポート板橋

八木淳子(介護福祉士)

チーム名: ケアシット



8

退院支援看護計画の立案率向上

竹川病院

藤岡和子(看護師)

チーム名: 上手に退院支援したいん?



9

貴重な朝の時間を守りたい! 早出残業削減に向けた取り組み

いわき湯本病院

高木晶子(管理栄養士)

チーム名: ムニュー・デギュスタシオン



10

勤務交代時の患者申し送り時間延長をなくしたい

花川病院

田村由美子(看護師)

チーム名: 5分の壁



後半の発表終了後に、座長の竹川英徳先生より、演題ごとに詳細な講評がありました。

前半後半の全ての発表が終わった後に審査をおこない、それぞれ2演題ずつ優秀賞が選ばれました。

受賞演題と内容は以下の通りです。優秀賞に選ばれたチームは、11月18日、19日に東京で行われる「医療の改善活動全国大会」で発表をおこなっていただきます。よい成績を期待しています。



歩行者自立者の転倒リスクを早期に発見する仕組み作り

介護老人保健施設ライフサポートねりま
チーム名：転倒転落対策は、あなたが思うよりやっています

歩行自立者の転倒転落リスクを早期発見するための仕組み構築が不十分で、事前に防ぐことができていなかった。それぞれの転倒転落の特徴を踏まえ、新たな歩行自立評価表を作成し、長期入所者の自立再評価を毎月100%実施することを目指した。



口腔ケアにおける職員の技術向上

ライフケアガーデン湘南
チーム名：口腔環境整え隊

多忙な業務の中で、口腔ケアに十分な時間をかけることができず、歯科往診時に歯の汚れ等を指摘されていた。そこで口腔衛生評価点が50点以下の13名を対象に歯科衛生士による勉強会や口腔ケアマニュアルの配布、時間確保、手順書の掲示などを行い、100点を目指した。



特別擁護老人ホームにおけるシーティングの実施率の向上

ケアポート板橋
チーム名：ケアシット

要介護高齢者の重度化を防ぐため、厚生労働省では10時間以上の離床が推奨されているが、単に離床するだけでは予防は不十分である。そこで1日のうち一定時間、正しくポジショニングを行い、正しいシーティングを実施することで重度化予防を目指した。



老健オアシス21における脱オムツの改善率向上

介護老人保健施設オアシス21
チーム名：～超強化型老健の役割って何だろう パート4～

令和3年4月に介護保険LIFEを導入したことで排泄ケアを見直す機会が生まれ、当施設の紙パンツ着用率が健育会グループ老健比較、全国老健比較でともに高いことが判明。自立支援にともなう排泄ケアの不足が問題視された。そこで新骨盤底筋体操導入や職員の意識対策などを行い、失禁がない、または少量の失禁しかないセルフケアが可能な紙パンツ着用の利用者23名から、10名の脱おむつを目指した。

審査結果発表の後、長谷川先生から講評をいただきました。



優秀賞を受賞された4チームの皆さん、おめでとうございます。本日の発表は、働き方から介護の話まで非常に多様なテーマが見られ、健育会の活動や医療・介護に関する関心が高まってきたことを感じました。また若い世代のグループや年数の低い施設も参加したことで、全体の物の見方も変わってきたようです。さらに今回は、介護系の改善活動が強かった印象です。例えば、おむつは急性期病院と介護施設で比重が違ってきますので、審査員の方々も後者に点数をあげた人も多かったかもしれません。

発表を見て、見方を変えることが改善につながることもわかったと思います。栄養課の早出残業に焦点を当てたテーマでは、食札の複雑さに驚きました。このままでは食事の間違いやアレルギー事故が出る恐れがあります。料理内容をシンプルにして情報伝達の間違いを減らす方が、質に訴えることができるでしょう。その結果残業時間が減れば、主たる効果と波及効果が逆になってしましますが、どちらが訴える力が強いということもチームで議論してみるとよいでしょう。

またTQMは、多様な職種が集まり、多様な視点から見て風通しを良くするためのものですから、同じ職種だけで行っても意味がありません。褥瘡なら看護系だけでなく、栄養課への声かけも行うことで視点が広がります。また車椅子の使い方について施設関係の部署に声かけすれば情報交流ができ、施設の活性化にもつながります。普段付き合のない職種には遠慮を感じると思いますが、TQMを利用して風通しをよくする仕組みを作ってみてください。

そして今回、2回目のWEB形式となりましたが、スライドで気づいた注意点がありますので3つお伝えします。1つ目は、問題点をわかりやすく示すこと。そのためにグラフや表をしっかり活用してください。2つ目は、特性要因図について。きちんとしたフィッシュボーンになってないスライドが散見されました。まずは魚の頭となる問題をしっかり設定し、多職種で集まってプレインストーミングを行い、小骨を集めることが大切です。小骨が集まって中骨になり大骨になるわけですから、小骨が足りないと話になりません。最低でも20~30は集めましょう。3つ目は、根拠の明記について。目標設定を高くするだけではいけません。健育会グループは幸いにも様々な施設があり、互いに比較することができます。例えば「自分の施設ではおむつの使用量が多いのでは？」という疑問を持った時に、比較して分析できます。これは非常にいいことで、皆さんも疑問を持ったらぜひ健育会の事務局に問い合わせしてみてください。そうした根拠を図や表を使って明確に示した発表が少なかったです。また検証して結果が出なくても、リチャレンジすることがTQMの醍醐味です。それをストーリーで語ることで審査員は引き込まれると思います。

最後に、皆さんパワーポイントで色々工夫されていましたが、やりすぎも見られました。色は多いと見にくいので3色までに抑えるべきですし、文字もできるだけ少ないほうが見やすくなります。また医療に関わる活動ですからアニメの使用は最小限にしましょう。発表前に身内で発表を行って、修正点を確認することが大切です。

今回発表を行った皆さんは、健育会グループの中で勝ち抜いてきた非常にレベルの高いチームばかりです。優秀賞をとったチームは全国大会に出ても恥ずかしくないレベルだと思います。私からは厳しいお話もしてしまいましたが、今お伝えしたことを少しでも考えてもらえれば、もっと良くなっていくと思いますからこれからも頑張ってください。

長谷川先生からの講評を頂戴し、この活動を継続していくことで健育会グループの医療の質はますます高まっていくだろうということを実感しました。様々なアドバイスをいただきましたのでそれを踏まえつつ、グループで丸となり、一層邁進して行ってほしいと思います。